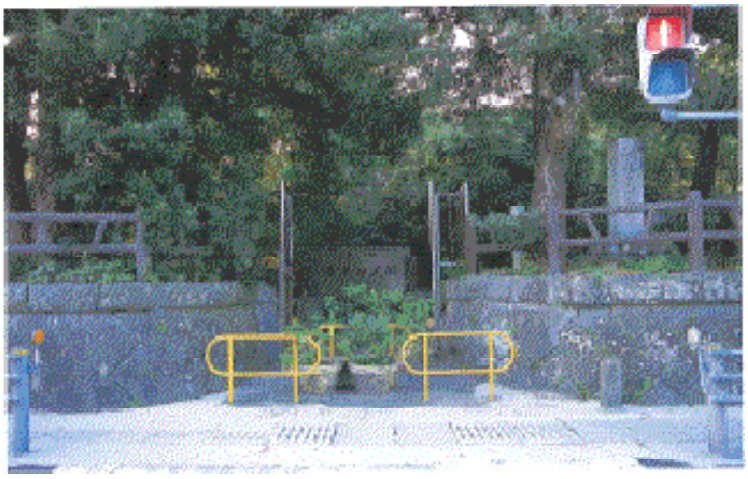
佐多旧薬園

【所　在　地】肝属郡南大隅町佐多伊座敷
【種　　別】国指定史跡
【指定年月日】昭和７年 10 月 19 日



佐多薬園とは，堀切薬園と上之園平薬園の二つを併せた呼称で，リュウガンが多く植えられていたことから俗に竜眼山と呼ばれていた。山川の薬園とともにその名が知られ，代々鹿児島藩の「薬草採取園」として続いてきた。

『三国名勝図会』には，「伊座敷村にあり，二園あり，当邑は本藩の境内，最南方にて，暖気の地なる故，草木の性寒を畏る者も，能生長せり，故に本府より薬園を置，種々の奇薬・珍果の類，若干種を植ゆ，此薬園日本の諸国になき草木も，能生長する処なれば，真に奇宝の薬園と云つべし，此薬園創めて開れたる年月　詳　ならず，或は宝暦・明和の比に，国老菱刈実詮建議して，創建せりといふ」とある。温暖な気候に着眼した島津重豪の時の家老菱刈実詮が建議し，宝暦から明和（1751 ～ 1771 年）の頃に設立されたと記されているだけで，はっきりした年代は不明である。

昭和５（1930）年の『肝属郡勢誌』には，貞享４（1687）年に新納時升がリュウガンを初めて植えたことと，文化年間（1804 ～ 1817 年）に津崎仁蔵が島津氏より預かったレイシを植えたことが記されている。このことから薬園として創建される以前にリュウガンが植えられ，その生長が良好であったことから宝暦年間以降に正式に薬園が創建されたものと思われる。

現在も薬園にはリュウガンとレイシが植栽されているが,江戸時代の母木の子孫である。そのほかにオオバゴムノキ，フトモモ，バンジロウ，アカテツ，クワズイモなどが植栽されている。